

和名：タバコベと病菌

学名：*Peronospora tabacina*

英名：tobacco blue mold（略称：TBM）

分布

イスラエル、イラク、イラン、ミャンマー、ヨーロッパ全域（オランダ及びキプロスを除く）、米国、カナダ、メキシコ、キューバ、ブラジル、エジプト、南アフリカ共和国、オーストラリア（タスマニアを除く）等

宿主植物

タバコ属等のナス科植物

病原体

べと病菌の一種。絶対寄生菌であり、培地で培養できない。分生子は主に葉裏に多数形成され、無色、単胞、楕円型、大きさは $18\sim 22\times 17\mu\text{m}$ 。遊走子は形成せず、発芽管を伸ばして発芽する。分生子は風で長距離を飛散する。有性世代である卵胞子の形成はまれだが、土壌中の罹病植物残渣内の卵胞子による伝搬の報告もある。

病徴及び被害

タバコ属植物に全身感染し、最も激しい症状を現す。本菌に感染したタバコ苗では、葉裏に青灰色のかびを発生する。ほ場に定植された株では、最初、葉表に多数の黄緑色・水浸状斑点が現れ（図）、その裏側に青灰色のかびを生じる。斑点は当初1～2cmであるが、多数発生すると互いに癒合・拡大する。罹病葉は、正常な大きさに達せず、奇形・湾曲し、病状が進むと葉全体が枯死する。本病は、曇天で湿度の高い時に発生しやすく、病徴も激しくなる。



図 タバコ葉の病徴